



TITLE:

簡易保険更長ノ一方面

AUTHOR(S):

財部, 静治

CITATION:

財部, 静治. 簡易保険更長ノ一方面. 經濟論叢 1916, 3(6): 882-890

ISSUE DATE:

1916-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127127>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第六號

第三卷

大正五年十二月一日發行

論說

戰時ノ我輸出品ノ粗製濫造(一)

戸田 海市

最小活資ノ免稅ヲ論ズ(二、完)

神戸 正雄

參觀交代制度ノ經濟觀(一)

本庄 榮治郎

『座』ノ研究(三)

三浦 周行

代表紙幣ト獨立紙幣(三、完)

作田 莊一

雜錄

公營造物ニ關スル美濃部、鐵田、松本ニ博士ノ
所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(三、完)

福田 德三

戰後ノ經濟戰ニ對スル準備

神戸 正雄

簡易保險更張ノ一方面

財部 靜治

歐洲ニ於ケル工場監督機關ニ就テ(一)

山本 美越乃

人口ト勞銀ノ趨勢

高田 保馬

經濟雜話(六)

田島 錦治

經濟漫錄(三)

瀧本 誠一

金井法學博士在職二十五年祝宴記事

田島 錦治

社會政策學會第十回大會記事

河上 正雄

京都法學會大會記事

瀧上 正雄

簡易保險更張ノ一方面

財部 靜治

一、平民ニニ義ヲ認メ得ヘシ一ハ乃チ多年傳習セル意義ニシテ華土族ニ對シ族稱ノ一種ト認メ

ラル、平民タリ一ハ乃チ輓近社會經濟發達ノ結果認メ得ヘキ觀念トシテ物持テ階級及有識階級ニ對シ無資產無教化ノ一團ヲ成シ經濟上社會上是等ノ階級ニ比シ大ニ劣ルヘキモノヲ總稱シテ平民ト呼ビ得ヘシ近年國家ニ歸スルニ權利權力保全ノ職分ヲ以テスル以外ニ教化民福増進ノ本分ヲ以テスルノ說愈々重キヲ加ヘテヨリ右第二義平民ヲ相手トスル國務ハ多端トナリ我國ニ於テモ亦特ニ公衆衛生、通俗教育、社會教育等諸名目ノ下ニ諸種ノ建築、施設ヲ見ルニ至レルハ悦フヘシ、之ヲ保險制輓近ノ發達ニツキテ察スルモ亦諸國一般ニ由來之カ恩惠ニ預リテ倖ヒスルコト最モ多カルヘキニ拘ハラス此恩惠ニ浴スルノ明又ハ資力ヲ缺キシ平民階級ニ對シ保險ヲ普及セシムルニ勉ムルヲ特色トス此點ニ關聯シテ我邦ハカノ獨逸ニ於テ一劇場ニツキテサヘ國民劇場ニ併セテ平民劇場ノ名稱ヲ附帶セシメ興行中一定ノ日ヲ選ヒ其入場料ヲ低クシ平民觀劇ノ便ヲ計リテ其趣味ノ向上ニ資スルカ如クナルニ比シ用意到ラサルコト遠キヲ感スト雖モ

其施設ノ一端視スヘキ平民生命保險ハ今ヤ簡易生命保險ノ名ニ於テ官營事業トシテ開始セラレタリ一保險ニヨリ被保險者ノ經濟上ニ及ボサルヘキ影響トシテ消費ノ節制ヲ擧ケ得ヘク否保險加入ノ條件トシテ之カ節制ヲ求ムヘキモノアリトセハンハ實ニ平民保險ナリ其每回保險料ハ小額ノ金錢ニシテ通常短期間毎ニ假令ハ每週又ハ毎月集金人ニヨリ取立テシムルコトナスカダメニ隨時五厘壹錢ヲ積ミテ之ヲ支辨シ得ヘク當該階級民之ヲ保險料ニ振向クルナランハ煙草、酒ノ享樂ノ如キサ迄有用ナラサル用途ニ投セララルヘキモノタリ本邦新施設カ其當初數個月間ニ如何ナル成績ヲ齎ラスヘキカ未來ノ實證ヲ待テ之ヲ斷スルノ外ナシト雖モ其何レニ出ツルヲ問ハス斯制カ細民ノ福祉ヲ助長スヘキ制度トシテ夫等民衆間ニ普ネク利用セララルニ至ランコト眞ニ望ムヘシ。簡易生命保險制ハ新施設ニ屬スルコト夫レ斯クノ如シ從ヒテ今斯制更張ノ一方面ヲ議スルカ如キ慎重ヲ缺クカ如シト雖モ本年十月京都市内一小學校動運會ニ際シ學童ニ支給

サレタル飲食物其當ヲ得サリシカ兔ニ角疫痢ノ
黴菌ハ持カレ傳染約百名ニ垂ントセルノ珍事ア
リ禍事多キ浮世哉ト人モ我モ持ツナル親心ハ動
キシ儘先輩ノ驢尾ニ附シ聊カ外國ニ其例ヲ譯ネ
平民保險ノ一種視スヘク又子ノ天死ニヨリ必ス
シモ富マサル親ノタメ臨時ニ惹起サルル需用ノ
充足方便視スヘキ兒女生命保險ニ付少シク説カ
ント欲ス¹⁾

二、本邦簡易生命保險ニアリテハ滿一二歳未滿
ノ被保險者ヲ認メスト雖モ(簡易生命保險令第五條)
外國ニアリテハ必スシモ此制限ヲ付セス、而モ
亦兒女保險 *Kinderversicherung* ト稱スル場合時
ニ平民保險視スヘカラサルモノヲ指スコトアリ
乃チ往々ニシテ此名稱ノ下ニ學費保險、嫁資保
險等普通生殘保險ニ數フヘキモノヲ指スコトア
リト雖モ固有ノ意義又ハ狹義ノ兒女保險ハ平民
保險ノ一種トシテ營マルヘキ死亡保險又ハ生死
混合保險詳言スレハ被保險者死亡ノ際ニ保險金
ヲ支拂フノミナラス遅クトモ豫定サレタル年齢
ニ達スレハ生殘スルモ等シク之ヲ支拂フヘキモ

ノタリ獨逸平民保險ノ發達上特殊ノ死亡保險
起リ兒女養育保險 *Kinderversorgungs-Versiche-
rungen* ナル名目ノ下ニ其保險ハ被保險者自身ノ
タメニ結ハレスシテ一子ノタメニ一定年限ヲ定
メテ契約セラレ養育者其期限經過前否契約後數
年ニシテ死スルトキハ爾後全ク掛金ヲ拂込ムノ
要ナシトシ又其子死スルトキハ他ノ子ヲシテ之
ニ代ラシメ得シトセルニ對シ一步ヲ進メタルモ
ノナリ現ニ數學家ニシテ其當時伯林ノ保險會社
Victoria ノ平民保險部長タリシ *Julius Wendt* ハ
第五回萬國保險學會議ニ於ケル報告中曰ク兒女
保險ハ平民保險ノ一部トシテソレ自體分離シ存
在スヘキモノト見ルヘカラスシテ寧ロ之ト有機
的關係ニ立トリト而シテ民ハ之カ立言ノ根據トシテ第一
ニ倫敦ノ會社 *Prudential* ニ於テ一八九四年ノ末保險證券ノ總
數一一、一七六、六六一通中二、五八五、八一六通ハ一〇歳以下ナ
ル兒女ノ生命ニ關セリ從ヒテ總證券中二、三、一%ハ兒女保險ニ
歸スルコトヲ舉ケ第二ニ北米合衆國ニテモ *Frederick L. Holt*
Hann ノ所報ニヨレハ一九〇二年ノ末一五ノ保險會社ニ於ケル
平民保險證券一一、三三三、三三三通中二、五〇〇千通從ヒテ二〇・三
%ハ一乃至一〇歳ノ子ニ關セルコトヲ舉ケカク被保險兒女數ノ

1) 本編ニツキテハ特ニ法學博士栗津清亮氏著簡易生命保險論凡例三頁一二四頁以下
及三〇五頁以下并ニ A. Manes, *Versicherungswesen*, 2. Aufl. 1913 SS. 277.,
278 參照

2) vgl. *Berichte, Denkschriften und Verhandlungen des Fünften Internationalen
Kongresses für Versicherungs-Wissenschaft*. I. Bd. 1906. SS. 23, 46.

被保險者總數ニ對スル割合ハ英米共ニ一般兒女數ノ總人口ニ對スル割合ニ略同シキノ事實アリトシ此事實ハ又之ヲ獨逸ノ事情ニ驗證スルモ亦異ルナシトシタリ³⁾ 而シテ獨逸ニアリテ一航平民保險ノ制同國人ノ會社ニヨリ採用サレシハ一八八二年ヲ嚆矢トスルヲ以テ兒女保險ノ隆昌ヲ見ルコトナレルハ近年ノコトナルモ英米ニアリテハ此範圍ニ於テ既ニ半世紀以上ノ經驗ヲ積メルヲ以テ兒女保險モ割合ニ普及セリ英ノ勞働階級民間ニ於テ子ノ頓死ニ際シ保險ヲ付セルノ事實明白トナレルヲ見テ驚クヘキヨリモ寧ろ保險ナカリシ者ニ逢着セル際眞ニ驚クヘシトセラルル程普及セルノ事實ハ之ヲ詳シク尋ネス試ミニ米國ノ會社Prudentialノ統計家タル前記Hoffman カ上記報告中ニ掲ケシ一表ニヨリ同國ニ於ケル之カ普及程度ヲ伺フコトトセンニ實ニ左ノ如シ(表中計數材料ヲ大體ニ人口四千以上ノ都市ニ限レルハ平民保險ノ扶植カ事實上最等諸都市ニ限ラルルノ事實ニ鑑ミタルモノナリ)

雜錄 簡易保險更張ノ一方面

一九〇四年北米合衆國都市住民數年齡別及平民保險證券所持者數年齡別并ニ兩者ノ適宜比

年齡級	市住民數	證券所持者數	證券一通當市住民數
五歲以下	1,478,737	1,004,161	1.7

五—一五歲	5,215,000	3,721,833	1.4
一五—二五歲	5,884,455	3,302,994	1.8
二五—三五歲	5,672,709	2,406,755	2.5
三五—四五歲	4,286,088	1,821,000	2.4
四五—六五歲	4,410,633	2,625,990	1.7
六五歲以上	1,325,018	5,216,276	2.5
計	29,602,766	15,624,384	1.9

其計數ノ確否ハ兎モ角トシ二五歲以下ノ諸級ニ於テ市民毎二人ナラサルニ一人ノ保險契約者ヲ數フルノ觀ヲ呈セルハ寧ろ驚クヘキニ非スヤ看ルヘシ米ノ平民保險ハ男女年齡ノ別ヲ問ハス舊ニ家長ノ保險ニ限ラレスシテ妻子眷族ニ及ホサルルカ爲メニ寧ろ家内一統保險 Family insurance トスヘキヲ、此點英獨ニ於テモ亦異ルナシ唯英米ニアリテハ兒女保險ノ大部分ハ死亡ニ關シテノミ契約セラレニ兩親ヲシテ葬式費其他子ノ死亡ニ伴ヘル費用ヲ得セシメントスルノ目的ニ出ツルモ獨逸ニアリテハ數小吊慰金庫 Sterbekassen ヲ除ケハ子ニ付純然タル死亡保險ヲ約スルコト普通ナラス乃チ獨ノ平民保險會社ニアリテハ寧ろ子ノ死亡保險ニ伴フニ存命保險ヲ以テスルヲ常トシ兒女保險滿期ト共ニ其存命

3) Vgl. a. a. O. SS. 39, 40

4) Vgl. a. a. O. SS. 134, 135 尙英國ニ於ケル普及ノ模様ニ付テハ同105-107頁參照

5) Vgl. a. a. O. S. 134, 39.

ノ際ニ受取ルヘク豫期セラレ確信式(Confirmation) (其式ヲ舉グルノ信條ハ自ラ異ルヘキモ我古式元服ニ似タル所多シ)又ハ結婚ノ資ニ宛テラルヘキ保險金ニ重キヲオクヲ例トス⁶⁾

三、今外國ニ於ケル兒女保險ノ影響中最モ注目スヘキ一點ヲ窺フコトトセンニ此保險無制限ニ許サレ又營マルル所ニテハ常ニ又被保險兒女ノ死亡數保險サレサル兒女ノ死亡數ニ比シテ遙カニ高シト主張セラレ又之カ證據モ舉ケラルルヲ見ル其理由トスル所ニヨルニ子ノ死亡ニヨリ入手ノ見込アル保險金額ノタメニ其親ヲシテ子ノ養育上不用心ナラシメ故意ニ子ヲ死ニ致サシムト輓近生活ニ處シ貧苦ニ迫ラレテ斯身飢斯兒不育斯兒不捨斯身飢ノ歎ヲ繰返ス者ソレ幾何ソ而シテ是等多數貧民ノ中ニハ自ラ愛兒ノ命ヲ奪フノ罪惡否悲痛ヲ忍フモ尙寧ロ金錢ヲ得ントスル者ナシトセサルヘシ或ハ又虛榮婦人ノ帶一本ヲ値ヒセサル小金額ノタメ戸浪カ「四十九日ノ蒸物マテ持テテ寺入」セシメシ心ヲ以テ其子ヲ兒女保險ニ加入セシムル母親モ存スヘシ而モ亦何

處ノ國ノ世間モサ迄無情ノ事實ニ富ムコトナキニ似タリ、此點ニ付 Hoffman カ有力ナル證據トシテ一〇歳以下子ノ死亡率ヲ會社 Prudential ノ經驗ト大體ニ同會社兒女保險及ホサルル地方住民一般ノ經驗トヲ比較シテ示セル所ニヨルニ二乃至三歳ノ死亡率ハ子毎千ニ付後者二〇・五タルニ前者一四・六タリ三乃至四歳ノ死亡率ハ前者ノ一三・二タルニ對シ一〇ニタリ四乃至五歳ニ付テハ等シク九・四ニ對シ八・〇ノ死亡率ヲ示シ五乃至九歳(一〇ナラサルカ疑ヲ存ス)ニツキテハ五・二ニ對シ四・四ヲ示シ其何レモ保險加入兒女ノ死亡數ハ兒女全般ニ付通算セル死亡數ニ比シ著シク低キヲ實證セリ之ト同時ニ又北米合衆國ニアリテハ過去數十年間被保險兒女大ニ増セル一面ニ於テ兒女死亡數實質上大ニ減シタリ衛生設備ノ改善ニヨル所モ多カルヘキハ素ヨリナルカ其外又兒女保險ニヨリ兒女幼時ノ監護教養ヲ等閑ニ付セシメタリトスヘキヨリモ寧ロ育兒法ノ改善ニ資セリトスルノ材料ニ供シ得ヘシ Wendt モ亦此點ニ付良心ナキ而親カ子ノ死亡保險ニヨリ刺激サ

6) Vgl. a. a. O. S. 40.

7) Vgl. a. a. O. S. 152. 英國ニ於ケル同様ノ事實ニツキテハ同 107 頁以下參照

レ犯罪行爲ニ出ツルコトアルヘシト憂フルハ從來ノ經驗ニヨルニ全ク不當トシテ斥クヘシト説ケリ、此點ニ關聯シ注意スヘキハ米國諸平民保險會社ニヨル大數兒女保險ニ關シカ、ル保險カ大金額ニツキ契約セラレ從ヒテ多少投機ノ性質ヲ帶ヒ社會政策ノ目的ニ反ストノ謬想ヲ生メルコトナリサレト事實ニヨルニ夫等ノ會社ニ於ケル兒女保險金額ハ極メテ小ニシテ十歳以下ノ子カ保險ニ加入シ拂込ミ得ヘキ掛金ヲ週十仙ニ制限スルモノ、如シ兎ニ角子ノ生命保險ハ子ノ葬式費トナスニ足ルヘキ金額ヲ授クルヲ目的トスト言フモ實際上支拂ハル、金額ハ最モ控ニ目トセル普通葬式費ヲモ償ヒ得サルニ似タリ會社Prudentialノ經驗ニヨルニ十歳以下ノ子ノ死亡ニ際シ請求サレ得ヘキ保險金額ハ平均三〇弗タルニ此年齡期ニアル者ノ葬式費ハ宏汎又周到ナル調査ノ結果確カメタル所ニテハ四〇弗タリ之ニ加フルニ生前最終ノ病氣療養費ニ想到センカ假リニ純然タル金錢勘定ノ根性トナリ下リテ考フルモ亦子ノ死ニヨリテ引起サル、經費ト保險

會社ヨリ受クル金額ト差引シテ相當ノ純損失ハ其家庭ニ歸スヘキコトヲ知り得ヘク子ノ生命ヲ犧牲トシ投機の保險契約ヲ結フノ餘地全ク存セストハ Hoffmanノ議スル所タリ⁹⁾サレト又此點ニ關シテハ諸國ニ於ケル兒女保險取締ニ付一瞥ヲ加フルノ要アリ請フ項ヲ改メテ少シク説カン四、北米合衆國中十州以上ハ特定年齡未滿ナル兒女ノ保險ヲ禁セントシタルモ此種ノ法案ニシテ實施ノ域ニ進メルモノハ唯一ノミ乃チ Colorado州ニ於テノミ十歳以下ノ子ノ保險ヲ許サスカ、ル禁制論ハ英ニ於テモ亦唱ヘラル而シテ其論旨ニヨルニ畢竟非倫ナル而親其子ノ養育ヲ怠リ之ヲ虐待シ又之ヲ殺害スルカ如キ事例起ルハ保險金ヲ得ントスル事其動機タリトナスニアルモ幾多調査ノ結果ニヨルニ子ノ保險トカ、ル犯罪ト一關係アルコトヲ示セルノ例全ク存セス寧ロカカル悲運ノ子ハ被保險兒女タラサルコトヲ示セル場合多カリキ¹⁰⁾サレト又保險金額ノ制限ヲ設ケタルモノハ多シ假令ハ一八九二年ノ紐育州法ニヨレハ十歳以下ノ子ノ保險ニ付定メラレタル

8) Vgl. a. a. O. S. 47
9) Vgl. a. a. O. SS. 151, 152.
10) Vgl. a. a. O. S. 47

最高金額左ノ如ク同様ナル法律ハ他ノ諸州ニモ亦存シ又米國諸保險會社ノ則レル所タリ¹¹⁾

一—二歲	二〇弗
二—三歲	三〇弗
三—四歲	四〇弗
四—五歲	五〇弗
五—六歲	六〇弗
六—七歲	七〇弗
七—八歲	八〇弗
八—九歲	九〇弗
九—一〇歲	一〇〇弗

英蘭ニアリテハ又夙ニ一八五五年ノ共濟組合法ニヨリ五歲以下ノ被保險兒女ノ死亡ニ際シテハ一又ハ數金庫ヨリ支拂ハル、保險金總額六磅以上タルヲ得ス又十歲未滿ノ子ノ死亡ニ際シテハ一〇磅以上タルヲ得スト規定シ此制限ハ爾來發布サレタル諸新法ニ於テモ採用 (例令 Friendly Societies Act of 1896) サレシト共ニ此規定ノ勵行取締ノタメニ保險金引渡ニ關シ條件ヲ規定シタリ¹²⁾ 過去半世紀餘英國ニ於ケル兒女保險ハ大ニ扶植セラレシニ拘ハラズ金額ノ舊制限ヲ依然トシテ其儘續ク得タル所以ノモノ一ハ同國ノ保守主義ニヨルモノナルヘシト雖モ社會ノ上中層者

流下層細民間ノ事情ニ通セス下層民ハ保險金ヲ得ントシテ其子ノ死ヲ迎フトセルノ冥想預リテ力アリシモノ、如シ獨逸ノ兒女保險ハ英米兩國ノソレト少シク其選ヲ異ニセルコト前ニモ說ケルカ如クナルヲ以テ此點ニ付テモ亦少シク考察ヲ異ニスヘキアリ詳言スレハ兩親カ此種ノ保險ヲ契約スルニ當リ第一ニ其眼中ニオケル目的ハ遇掛金ヲ拂込ムコトニヨリ便宜上將來ニ於ケル其子ノ確信式、兵役義務、結婚其他子ノ存命ニヨリ引起サルヘキ需用充足ノタメ必要方便ノ調達ヲ確カナラシメントスルニアリ從ヒテ保險ヲ付セル子カ天死スヘキコトモアリ得ヘシト思惟シカ、ハル場合ニ支出スヘキ經費ノタメニ緊急ノ準備ヲナスカ如キハ契約ノ動機トシテ元來重キヲナススト雖モ子ノ死亡ノ際ニ於ケル處置トシテ日常經驗ノ教ユル所ニヨリテ察スルニ人口中主トシテ平民保險ニ加入スヘキ階級民ハ其子死亡ノタメ殆ント皆經濟上ノ急迫ニ陷キルヲ恒トシカクテ子死セルタメ其手ニ歸スヘキ保險金額ハ大ニ歡迎セラル、ノミナラス間々此急迫ヲ凌

11) Vgl. a. a. O. SS 43, 152

12) Vgl. a. a. O. SS. 40, 100-105.

クニ缺クヘカラサル一助トセラルカクテ獨逸ニ於テ兒女死亡保險ニ對シ大ナル需用存スルハ英米ト異ルコトナキヲ見ルヘキモ同國ニテハ由來被保險兒女ノ養育ヲ疎略ニシ又ハ虐待セル廉ヲ以テ刑事裁判所ヲ煩ハセル事例中犯罪ト虐待サレシ兒女ノ保險トノ間何カノ關係存スルコトヲ思ハシムルノ緣由タルモノ全ク存セスシカモ亦保險契約ニ關スル獨逸帝國法ハ兒女保險ノ契約ニ付兒女ノ法定代理人ノ同意ヲ要ストシ且又立法者ハ契約スヘキ兒女ノ両親自身カ通常其法定代理人タルノ事實ニ鑑ミ此際恰モ被保險兒女ヲ其両親ノ毒手ヨリ保護スルノ必要アルヲ斟酌シ特ニ両親以外ノ特別一法定代理人ノ同意ヲ索ムルコトトセルモ此制限ハ子ノ七歳滿了前ニ於ケル死亡ヲ保險事故トシ又其保險金額カ普通葬式費ヲ超過スル場合ニ限り之ヲ求ム而シテ其最高額ノ詳細決定ハ之ヲ監督官廳ニ委ネシカ之ニヨリ其官廳規定セル所ニヨルニ子死亡ノ際從來拂込マレタル掛金ノ還付ハ常ニ行フヘキコトトシ其外一歳乃至三歳ノ者ニツキテハ多クトモ五〇

馬克四歳五歳者ニツキテハ多クトモ百馬克六歳七歳者ニツキテハ多クトモ二百馬克ヲ支拂フヘシトス¹³⁾ 五、一切ノ保險ハ元來道德振肅ノ效アルヘキモノナリト雖モ之カ運用ソノ宜ロシキヲ得スンハ不徳助長ノ弊ヲ伴フコト寧ロ多シ兒女保險ニ就キテモ亦此弊起リ否起ルトスルノ杞憂存スルハ上來説ケルカ如シサレハ此制度ヲ起スハ遂ニ世上一切ノ親ヲシテ親ヲシキ親タラシメ育兒、家庭教育ノ能力技倆ニ丈クルノ人ヲ以テ世ヲ充タスノ理想的ナルニ如カスト雖モ此理想現實ノ日ハ必スシモ望ミ得ヘキニ非ス從ヒテ又自ラカ、ル保險制ノ探否ニ付一考ヲ煩ハスノ餘地アリ特ニ獨逸ニ於ケルカ如キ特殊發達ニヨリ其餘弊視スヘキモノヲ防キ又適當ノ取締ヲ加ヘテ之ヲ抑壓スルノ道モ自ラ存スルニ於テオヤ、曩年英國ニ於テ養老年金制布カレタル後我邦學者中之ヲ紹介シ又之ヲ移植セントセルモノアリシニ當リ甚顯官之ヲ評シコハ恰モ我家族制度并ニ孝ヲ百行ノ本トスルノ精神ニ背馳スルモノナリトセシ

13) Vgl. a. a. O. SS. 46, 47. Manes, Versicherungslexikon. Ergänzungsband. 1913 SS. 414, 415.

コトアリト傳聞シ予輩ハ寧ロ右年金制ヲ以テ却
リテ孝行ヲ勸奨スルノ方便ニ供シ得ヘキニ非ス
ヤト思ヒシコトアリ惟フニ兒女保險ニツキテモ
亦同様ナル見方ノ相違起リ得ヘシト雖モ要ハ忠
實ニ平民生活上必要視スヘキモノヲ詳查シ其必
要ニ應ジテ有用ノ施設ヲ講スルニアリ簡易保險
ノ第一着歩ハ既ニ開カレタル今日經世家ハ須ラ
ク之カ整備又擴張ヲ念トシ斯制ヲシテ眞ニ細民
實生活ノタメニ意義多キモノタラシムヘキナリ
忌ムヘキハ外國ニ其例アリト言フナル一聲 One
half of the world has no idea of how the other
half lives ノ歎ニ存スレハナリ。